

武蔵野市の将来を考える市民会議(第2回)議事録

日時：平成22年8月12日(木) 午後7時～9時

場所：かたらいの道 市民スペース

次第

1. 開会
2. 検討事項
 - (1) 委員からの質問等について
 - (2) 今後の進め方について
3. 議事
 - (1) 武蔵野市の将来像について
4. その他
 - (1) 議事録確認
 - (2) 次回日程確認

日時：8月25日(水) 午後7時～9時

場所：武蔵野商工会館4階 市民会議室(吉祥寺本町1-10-7)

<配布資料>

次第

- 資料1 委員からの質問等について
- 資料2 武蔵野市の将来を考える市民会議 今後のテーマ(案)
- 資料3 武蔵野市の将来を考える市民会議 今後のテーマ(案)についての委員意見等
- 資料4 武蔵野市の将来を考える市民会議 議論のテーマ・フレーム比較

<参考資料>

- 参考資料1 武蔵野市基礎統計(平成21年版 武蔵野市地域生活環境指標より)
- 参考資料2 平成22年度予算案特集 等(平成22年3月15日号市報より)
- 参考資料3 個別計画一覧
- 参考資料4 武蔵野市の長期計画のローリングについて

1. 開会

事務局（企画調整課長） ただいまから、第2回武蔵野市の将来を考える市民会議を開催させていただきたいと思います。

今日は幾分涼しいようですが、夜分お集まりいただきまして、ありがとうございます。冒頭に申し上げますが、委員の方から運営についてご要望がございまして、ぜひ9時を目途に終了すべきという要望がございましたので、今日もできれば2時間、9時までの委員会とさせていただきたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

それでは、お手元の次第に沿いまして進行させていただきたいと思います。次第の下に配布資料等がございまして、これからのご説明等の中で順を追ってご説明させていただきますので、その際なければお申し付けいただきたいと思います。

2. 検討事項

(1) 委員からの質問等について

事務局（企画調整課長） まず、「2. 検討事項」でございますが、「(1) 委員からの質問等について」ということでございます。資料1をご参照いただきたいと思います。前回の7月26日、第1回からこれまでの間、委員の方々からいろいろご質問をいただいております。要約いたしますとこういう4点になるかなと思っております。まず、1つ目のご質問の、「1. 成長率・人口増加率の試算」はどうなっているのかというご質問がございました。それに対しまして、「参考資料1 武蔵野市基礎統計（平成21年版 武蔵野市地域生活環境指標より）」という、A3を折り込んだ資料があるかと思っておりますので、ご参照いただければと思っております。

まず、この参考資料1と書いてある裏面をごらんになっていただきたいと思います。下にページ18と付っておりますが、それは前回皆様にお渡ししております地域生活環境指標のページでございますので、もしもお持ちでしたらこちらをご参照いただければと思います。この統計によりますと、武蔵野市では、昭和26年から同じ方式で人口を集計しております。昭和26年、一番左の表でございますが、昭和26年が人口の総数が7万5,000人、世帯数が2万を切っているところから、昭和33年になりますと人口が10万台に乗ってまいります。前回もご説明いたしました第1期基本構想・長期計画を策定した昭和46年をごらんになっていただきますと、この時点でもう13万6,000人という人口になってございます。ただ、その当時世帯数は5万ちょっとというところですよ。

それから、ずっとくだってまいりまして、昭和62年をごらんになっていただきますと、この統計上ではピークがここに出ておりまして13万6,637人、ただ昭和46年と人口は余り変わっておりませんが、世帯数がおおよそ8,000世帯ぐらい増えております。5万9,000世帯になっております。その後、平成9年に一たん底を打つといいますか、13万308人になっております。現在、平成21年が13万4,422人、世帯数にいたしますと7万世帯ということで、昭和26年の統計をとったときに比べますと人口は約2倍、ただ世帯数につきましては3.5倍になっているという状況でございます。人口自体はおおよそ13万台で横ばいになっておりますが、世帯数がどんどん増えているという状況でございます。

今の資料の前の面に戻っていただきまして、参考資料の1と書いてある下のグラフをご覧になっていただきたいと思います。このグラフにつきましては、男女が左右に分かれておりますのと、5歳刻みで、武蔵野市に何人在住していらっしゃるかというのを、平成15年と平成21年の比較で載っております。このグラフをごらんになっていただきますと、ちょっと見づらくて申しわけございませんが、5歳刻みの上側、ちょっと黒くなっているところが平成21年で、その下に書いているのが平成15年でございます。

比較をしていただきますと、ゼロ歳から19歳までが本当に少ないという状況と、それぞれ5歳刻みで6年で比較をいたしますと、特に若いところは明らかに減っているというところと、50歳以上で比べますと明らかに平成21年以降がふえているという状況でございます。このトレンドはずっと継続しております。今現在で申しますと、65歳以上の世帯がちょうど20%という状況でございますが、あとおよそ20年以内に65歳以上の人口が25%を上回るという予測をされているという状況でございます。最初のご質問には、このようなことが考えられるということをお示しさせていただきたいと思っております。

それから、2番目のご質問の市の財政状況の見込みについてどうなんだというご質問がございました。「参考資料2平成22年度予算案特集 等(平成22年3月15日号市報より)」をご覧ください。これは、市報の抜き書きでございます。今年の3月15日に、これは市報で全戸に配布させていただきました資料でございます。まず、一面でございますが、市政運営の基本理念、施政方針と載っており、主要な施策はこういうものですよということが載っております。それから、次のページを開いていただきますと、主な事業と予算をお知らせしますというページが左右に広がりますが、これは市の長期計画の5つの分野に分けて、おおよそ各分野でどんな事業をやっているかということ載せたものでございます。

それから、もう一枚開けていただきますと、「市の予算の規模と特色、内訳について」という記載がございます。そこをご覧くださいと、おおよそ市の予算の概要というのがわかりになっていただけるかなと思います。右上に円グラフが載っております。円グラフの右側が歳入、円グラフの左側が歳出となっております。おおよそ一般会計予算は569億4,000万円と載っておりますが、右側の歳入をごらんになっていただきますと、市税が363億、6割強は市税でございます。それから、下に順に国庫支出金でありますとか、都支出金というふうになっておりまして、6割が市税だというのが市のお金でございます。

反対に出ていくお金をごらんになっていただきますと、歳出の一番上に民生費とございますが、社会福祉とか児童福祉、生活保護などに要するお金でございます。ここに200億以上かかっています。36%が民生費、それから教育費でございますが、これは学校教育だけではなくて生涯学習もここに入っておりますが、ここに16%、約90億、それから総務費、それから土木費、これは公園とか道路ということに11%、それから衛生費と続いておりまして、環境とかごみにおおよそ10%支出しているという状況でございます。

その次のページにある縦長の、形がちょっと違ったものでございますが、これは市報ではなくて私どもから追加させていただきました資料でございますが、平成13年から平成22年までの間の市の一般会計予算の規模と市税の推移というものがございまして、これをご覧くださいと、おおよそ市の歳入といえますのは530億から、一番多かったときは600億、平成16年にございましたが、550億前後で推移しているということがわかります。

それから、この表の中段に市税とございますが、やはり350億程度で推移しているというところがございます。この市税の内訳でございますが、この下に表が載っております。「市税額の推移」というところがございまして、左から個人市民税、法人市民税、固定資産税、その他となっておりますが、これをずっとご覧くださいと、市の市税の内訳としましては個人市民税と固定資産税が圧倒的に多いという状況でございます。個人市民税が、平成22年で155億、法人市民税につきましてはだんだん減っておりまして19億、固定資産税につきましては149億ということでございまして、市税のほとんどを個人市民税と固定資産税でということになっております。

これは今の状況でございます。ご質問といえますのは、財政状況の見込みということでございまして、確かにリーマンショック以降どこでも自治体の市税が苦しくなっているということがございますが、

おかげさまで武蔵野市は比較的安定をしているという状況でございます。ただ、リーマンショックも2年前の9月に起こったと思いますが、ちょうど今の調整計画はその春に出ておりますが、調整計画の行財政の部分には、サブプライムローンはあるけれども、比較的大丈夫だろうというような記載がございました。ただ、その半年後にはああいうふうに世界的な問題になっていくということがございますものですから、なかなか財政状況について見通すというのは難しいなというふうに思っております。ただ、長期計画の策定に当たっては、なるべくそういうことも考えていって、今後どうなるかということの予測を立てながらその中でやっていくんだろうというふうに思っております。

ただ、財政状況ということとちょっと違うかもしれませんが、今後、武蔵野市としましては、例えば都市施設、下水道とか市の持っている学校とか、それらの建てかえ期を迎えてまいりますので、今後恐らく都市基盤のリニューアルに1,000億ぐらいのお金がかかってくるという予測がございまして、今後そういうところにもお金を振り分けていながら、どうやって望まれるところにお金を使っていくかということを考えていく必要があるというのが現状でございます。

それから、資料1の「3. 個別計画」でございますが、個別計画はどうなっているんだというお話がございました。「参考資料3 個別計画一覧」をご覧ください。55 ぐらいの個別計画が載っていると思いますが、これらの計画につきましては、基本的には市のホームページでもご覧いただけだと思いますので、申しわけございませんが、まずホームページでご確認していただきまして、なおまだということございましたらお申しつけいただきたいと思っております。ぜひともよろしく願いいたします。

それから、もう一つご質問がございまして、基本構想・長期計画のローリングの問題でございます。これは前回ご説明いたしました、今回の基本構想の計画期間は10年間でございます。それから、4年ごとのローリングをしているというご説明はさせていただいたところでございますが、ローリング期間としてはちょっと長いのではないかとのお話がございました。「参考資料4 武蔵野市の長期計画のローリングについて」をご覧くださいたいと思っております。市では、昭和46年の第1期基本構想・長期計画の策定以来、ずっと定期的に見直しを行ってまいりました。最初の2回は3年おきに見直しをしております。ただ、その後4年毎に変わってきております。武蔵野市は自治体でございますので、市長は皆様の選挙で選ばれるということになっております。このローリングの中にも市長選挙と市議選挙が入っております。市長選挙が4年毎、市議会議員選挙も4年毎にあります。市長は市の運営の責任者でございます。3年毎とか、2年毎というのは、市長のお考えとか、市議さんのお考えということとちょっと年次的に合わないということもございまして、やはり市民に選ばれた市民の代表の方のお考えとか、それと二元代表制といわれている市議さんとの関係がございまして、やはりこれは4年毎に見直すのが合理的なのではないかと市では思っております。

ただ、だからといってもちろん放ったらかしているわけではございませんで、事務事業評価とか、これは毎年100事業ぐらいを選びまして事務事業評価をしております。その評価結果につきましてもすべてホームページに掲載してございます。それ以外に毎年、主要事業と申しまして、長期計画に基づいて実施している事業を、各課の事業から、大体60から100ぐらいの間ですが、選びまして、その進行管理を毎月行っております。それ以外の事業につきましても、年4回でございまして、進行管理を行っております。

それから、自治体でございますので市議会がございまして、毎年長期計画に掲げられている事業につきましても、やる、やらない、それから、それがどういうふうに行っているかというのは、議会で予算それから決算の議決をいただくという中でチェックをしていただいております。そういう意味では長期計画に上げられた事業は、全て毎年いろいろな形でチェックをしていただいているという状況がござい

ます。

私は、さっき申しました市議会議員さん、それから市長という、市民の代表の方の選出も含めて、大きいと思いますと4年ごとのローリングで調整していくという考えと、毎年その中の事業をチェックしていく。また、議会にもチェックしていただくというローリングをしているというところでございます。

まず検討事項としまして、委員の皆様からいただいたご質問について、ご説明いたしました。

(2) 今後の進め方について

事務局（企画調整課長） 次に進ませていただきますが、「今後の進め方」ということでございます。私どもから、皆様に7月26日の第一回会議の後に、前回の1回目のまとめ案というのを送らせていただきました。それが今回お手元の「資料2 武蔵野市の将来を考える市民会議 今後のテーマ（案）」でございます。この考え方でございますが、これは事務局で加工することなく皆様が当日おっしゃったご意見、それから皆様が当日手元に作文はないんですかというお話もございましたものですから、公募委員に応募された作文でいただいたご意見をあわせて、繰り返しますが、加工することなく、まとめてみたものでございます。ジャンルとなっておりますが、例えば少子高齢社会というのはジャンルということではなくて、これは状況かもしれませんが、このようなことが言われていたのではないかと、まとめてございます。キーワードとなっておりますが、これは皆様のご意見からあった言葉をこうやってくくったというところでございます。これを皆様にお示しさせていただいたというところです。

その後、「資料3 武蔵野市の将来を考える市民会議 今後のテーマ（案）についての委員意見等」にございますが、3人の委員の方からこのようなご意見をいただいたというところで、これは皆様にも事前にお配りさせていただいていると思います。それを、比較をというと失礼なんですけど、まとめさせていただいたものが「資料4 武蔵野市の将来を考える市民会議 議論のテーマ・フレーム比較」でございます。A案というのは事務局で、先ほど申しました事務局側が加工しなかったものがA案でございます。その後に委員の方からいただいた修正案がB案でございます。それともう一つ、全く違う視点で組み直していただいた案がC案というふうになっております。あと4回の議論でございますので、まず、このどの形に沿ってご議論していただくかというのを決めないといけないのかなと思っておりますので、まずこれについて決めさせていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

A委員 議論の前に質問があるんですけども、事務局案では資料の2でその他という欄を設けていると思うんですけど、それが資料の4ではそのことについては全く触れられていないんですけども、事務局案としてはその他の位置づけはどのようにお考えでしょうか。

事務局（企画調整課長） 先ほど申しましたように、キーワードと申しましたのは、皆様のご意見でございまして、これは私どもの意見は全く入っておりませんので、ある程度グルーピングできるとするとかいう案だろうということで、このご意見を捨てるとか、そういうことではございませんので、グルーピングの問題でございます。

A委員 その他の中で、第2回に入れられるものがあれば入れていくということですね。

事務局（企画調整課長） もちろんそれは委員の皆様のお考えですので、それはそうしていただければと思います。

B委員 市役所から送っていただいた今後のテーマ(案)を見て、途方に暮れたところがあるんです。確かにこれだけの話、みんなのこの前の第1回の中に出てきておりましたし、それをご苦労してまとめてくださったのはわかるんですけども、こうやって話しして行って、2時間はあっという間に過ぎる中で4回終わって、それがどういうふうにとまとめるのかと考えたときに途方に暮れていたんです。

非常に個人的な話なんですけど、孫2人を預かっておりまして、それ以上ゆっくり考えたり整理する暇がなかったところへDさんからの表がきまして、これを見ながら、いずれにしても、全てのことが話せるわけではないんですけども、Dさんが作ってくださった、2回、3回、4回という流れだと、ある程度私としては気持ちの上で乗りやすいというのがあったんです。ただ、Dさんの中にもうちょっとつけ加えたいというものがありましたので、青い字で入れさせていただいています。特に第3回のところで環境問題と平和を入れているのと、第4回、これは吉祥寺、三鷹、武蔵境周辺の中に入れてもいいんですけども、自転車問題というのはかなりこれから武蔵野市の大きな問題だったので入れました。

それから、欄外に入っている2つは、行財政運営は第3回、まちづくり条例はもう既に動き出しているの第2回かと思いつつ、孫がいなくなった3時からやっていた作業なので、夕飯をつくりながら印刷するのに間に合わなかったのでこんな形で、今回は済みません、この次からは孫はいませんので、もうちょっと余裕を持って出せると思います。ということで、一応出させていただきます。どういうふうやっていくかということで残り時間をとれないということもよくわかっているんですけども、私としては気持ちが動くというようなことでこういったふう組みかえさせていただきました。

事務局(企画調整課長) 今ご意見もありましたが、まず、皆様で論点といいますが、それを整理しないといけないと思います。他にご意見はいかがでしょうか。

C委員 その前に資料の質問なんですけれども、「参考資料3、個別計画一覧」というふう書いてあって、分野別にずらっと並んでいるんですが、この計画名のところはもう現在進んでいるところもありますね。私がやっているクリーンセンターの施設についてはもう基本計画に取っかかっていますので、内容的にも動くと思いますし、それから、裏のページの都市基盤の、私の知っている範囲内なんですけど、武蔵野市の第2次住宅マスタープランから今はもう第3次に入っているんですね。だから、それがだんだん動いてきますね。そういう動きつつあるものを予測をしながら議論をするということでしょうか。

事務局(企画調整課長) 基本的には、各個別計画を大事にしていくんだということなんですけど、この委員会の役割としては、個別計画を検証しながらということではなくて、皆様が10年後、20年後にどういう市になっているべきかという、どちらかという「べき論」に近いのかもしれないんですが、そういうご意見をいただく場だと思っております。残り個別計画に書かれていることに囚われないで、本当にもっと大きな、市としてどうするべきかというご意見をいただければというふうに思っております。

C委員 残り固執することはしないけれども、ちょっと違うことが出てきても構いませんよということなんです。

事務局(企画調整課長) それでも構わないと思います。

A委員 重要な論点として、今後の流れについて一つ提出させていただきたいんですけども、Dさんがフレームを提出してくださって、私もこういったフレームがあることの重要性は感じました。フレームを仮につくるとした場合に、それをどのように設定するかという問題があると思うんです。Dさんはこの3つのフレームを第4期の調整計画からもってこられましたね。その視点というのは第4期の調整計画での基本的な視点でありまして、それから何年かたちまして、第5期で基本的な視点というものを、先ほど事務局の方がおっしゃったように「べき論」で、私たちがこの話し合いを通じて何か将来を考えるに当たってこういった視点が基本的なものではないかとか、何か形成していくものとしてとらえることも一つの案だなと思ったんです。第4期のものを継承していく。あるいは、その基本的な視点自体をつくり上げるか、それ自体も一つ重要な論点だと思ったんですけども、いかがでしょうか。

D委員 それは確かにそうだと思います。ただ今のこの3つの視点というのは、今現在市を動かしている重要な計画であって、これを継承していくという流れがあるのではないかなと私は考えて、事務局案のジャンルが幾つかあるけれども、もちろん話しやすいと思ったんですけども、こういうストーリーというものではないですけども、1回、2回、3回と、こういうふうな形で大きな枠組みの中で話しをしたほうが話し合いになるかなという思いもあって、ご提案した次第です。

E委員 今のA委員のご意見、なるほどなと思いますのは、5回だけの10人だけの市民会議でどこまで突っ込んだ議論ができるのかというときに、前の調整計画のときには5つの分科会があって、おのおの20人委員の方がいらして、20回くらいおのおの会議をやっておられたんですか。だから、全部で延べ100回くらいの会議で、既にある長期計画に対してどう直すべきだという議論をされて、相当個別に突っ込んだ議論をされたんだと思うんですけども、今回まさに第5期で、ある意味でさらに状態で、武蔵野市がどういう方向に向かっていくのかというところの、本当に「あるべき論」ぐらいしか我々10人では議論できない。あるいは市長経由の策定委員に対して市民としてはこういう方向に武蔵野市としては向かっていくべきなんじゃないかということしか提示できないのかなという気も実は私はしています。そういう意味では、私このB案を提案したような形にはなっておるんですけども、別にB案にこだわるものではなくて、むしろもともとの第4期の長期計画、基本構想で言っていた、「都市の窓を開こう、新しい家族を育てよう、持続可能な社会をつくろう」という、一番最初のこの3つの基本方針、これが第5期、10年たった今何なのであるべきなのかというのを議論する時間というのがすごく大事なんじゃないか。もともとのイメージでは、2回、3回ぐらいたった後に、では何なんだろうということ、第4回で戻ってきてもいいのかなという気もしたんですけども、今のA委員の話を聞いていると、最初に議論してもいいのかなという気もできたところなんですけれども。

C委員 この先どういうふうな形でいくのかわからないんですが、私は前回の第4期の長期計画の調整計画のときの都市基盤のところずっと出ていたんですが、都市基盤はすごく範囲が広くて、そのときも抜け落ちる部分がすごくあって、目に見えない部分、さっき事務局がおっしゃったように、上下水道のことなどは一般の市民に見えないんです。でもすごく大事な問題なんです。絶対それは落してはいけないし、最終的に行財政のところすごくかかわる問題なんです。民生活を地面の下で支える、そういう問題なので、その枠はきちんと押さえておいたほうが、次への、策定委員会への足がかりになるので、そこは落していけない問題ではないかと、私自身は苦い経験から思っているんです。だから、このB案のところのこのあたりのところはかなりしっかりといろいろな形で入っているので、このB案がい

いなと。自分で余り考えないで、人のあれなんですけれども、そんなふうに、これを今見て感じています。

B委員 E委員のおっしゃることと同じように私も考えているんですが、最後のところが違う。私たちは個別のことにまでとても言及することを期待されているわけではないんだけど、自分の生活の実感からきたことでは、個別のことから話をするので、何かのお役に立つというようなことぐらいしか期待されていないと、正直思うんです。その中で、フレームというのは考えるときの道筋にすぎなくて、ですから、私はきょうはこのフレームのほかにも初めに提出された案にプラス、E委員の案でしたか、J委員、2人のものを赤字で入れたものを持っています。仮にDさんの案でやったとしても、初めのA案プラスB案、さらに細かくたくさん出してくださっていますね。PDCAサイクルの確立とか何とか、そういうものを全部書き込んだものを持っていて、その中で、すべてが話せるわけではないんですけど、自分はこの点についてはぜひ話ししておきたい。皆さんにも話したいし、市の方にも聞いてほしいというようなことをみんなが出していくというようなやり方かな。個別に一つ一つやっていって、例えばA案にしる、B案にしる、順番にやっていってそれで話が尽くせるものではないんです。恐らく、順番にやっていったら3分の1ぐらいで時間は終わると思うんです。そういう意味でもっと大きなフレームのほうが話しやすいのかなと思ったんですけども。だから、結果としては同じなんですけれども、私にとって話しやすいという選択でした。

F委員 計画を立てるのにだれが考えても大切なのは時間なんです。1日24時間しかないんです。今回与えられたのは2時間で5回なんです。だから、これはみんなから聞いていたら切りがないですよ。だから、事務局に従って、これについての市民の目線を言ってくれと。私はそれで十分だと思うんです。なぜならば、2時間で5回の会議であれば聞いていたら切りがないですよ、一人一人全部意見が違うわけですから。だから、私は事務局が考えて、こういうことに対して市民の目線でどうなんですかということをお我々が我々の目線で自分の考え方を述べるということでもいいのではないかと。つまり、結論からいえばA案でいいんじゃないんですか。A案、B案、C案決めていたら、一日かかっても、考え方が違うわけですから、だから事務局にお任せしたいというのが私の案です。

事務局(企画調整課長) 私から申し上げさせていただきます。冒頭申しましたように、A案と便宜上ついておりますが、これは案というよりも皆様の発言をくくただけでございますので、そのくり方でよければそれはそれで結構でございますが、それ以外にもこういう点もあるだろうというのは委員の皆様からのご意見だと思っておりますので、それはご議論いただきたいなと、私は思います。今いろいろ話が出ましたが、C案のこういう3つのフレームの中にそれぞれが、皆様が思う、詰め込みたいものを出していくというやり方もあると私も思っておりますが、いかがでしょうか。では、これこそ事務局提案ということでございますが、せっかくだいたいご意見でございますので、このC案、それからまたE委員からいただいた案、それからBさんからいただいたご意見で、こういう3回で、ぜひこの中で、このフレームで入れていきたいものというのは何だろうということをやったらいかがかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

<委員了承。>

A委員 議論の前に、確認させてもらいたいのですけれども、E委員があらかじめ出した意見の中で、例えば第4回、第5回で最後に議論、例えば私たちのビジョンとか、そういうものを考える場があってもいいんじゃないかというご意見があって、それについてまだ話し合っていないですね。今後の流れを今話し合う場だと思うんですけれども、それは、その点はいかがでしょうか。

事務局（企画調整課長） おっしゃるとおりで、5回がまとめのつもりでございますので、そこでまたE委員からご提案のあった全体のビジョンを、2、3、4を通じてさらに全体のビジョンのご議論をいただければというふうに思っております。何かこのテーマというか、フレームでご意見をいただければと思います。

3. 議事

(1) 武蔵野市の将来像について

事務局（企画調整課長） では、今日は第2回ですので、ご提案がございました「第1の視点、現在まで築かれてきたものを使う、保つ、継承する」ということにつきまして、これから委員の皆様でどんどん発言いただきたいと思っております。

D委員 提案してしまったのであれなんですけれども、前回ハードからソフトへというお話もあったように、これからの時代は、建物を建てたりとか、そういうことから、そういうものではなくて、人を育てていくとか、人をつないでいくというようなことが重要になってくるかと思うんです。行政のサービスとして、公設公営の直営方式でいろいろなことをやっていくというのはこれからは難しくなるのではないかなということをおもいました。行政のサービスが、NPOとか、それから市民の活動に期待していくというようなことが大きくなっていくのではないかなと思うんですけれども、そういうときに行政が何をしてくださったらいいかなというのは、そういうときにサポート、行政が何かを自分でくださるのではなくて、市民が動きやすいように、それも小さな活動をきめ細やかにサポートしていただく、そういうことをやっていっていただきたい。それから、人と人のネットワークを構築していく、そういうふうな形で行政がかかわってくださるというのが今後の一つのあり方かなというようなことは考えたんですけれども、いかがでしょうか。

G委員 ちょっと急なものですから、何かどういう部分についてお話ししたらいいかわからないんですが、私なりにきょう第2回の少子高齢社会という記述があったものですから、それについて少し考えて、前回もお話ししたんですが、やはり武蔵野市が世間一般からは武蔵野市はこういう市だ、こういうまちだといわれる代表になるものは何なのか。いろいろな言葉があると思う。あるいはいろいろな方針があると思うんですが、一言でいったら、やはり弱者に優しい、弱者のための施策が充実している市であるというふうにいわれるのが一番いいんじゃないかというのが私の個人的な希望なんです。そういう意味で、弱者といったら、前回もお話ししたように子供と高齢者が弱者を代表している人たちだと思うんです。前回それについて少し考えを広げまして、私はもう少し具体的に申し上げますと、前回Fさんが高齢者にも働いてもらおうというようなお話をされて、非常に印象深かったんですが、私自身も、ちょうど中年の方、要するに仕事を持っている方は会社もあるし、あるいはそれぞれのお仕事がある。それを終えた方々が大勢、特にこの武蔵野市は高齢者の方が多いという、大勢仕事を終えた方々がいる。その人たちが何か世の中に貢献できることができるような、そういう施策を推進していただけたらいい

んじゃないか。高齢者が働ける、あるいは高齢者が活動できる地盤、基盤をつくって、基盤を充実させたらいいまちになるんじゃないかというふうに考えました。まずその点について申し上げたいと思います。

事務局（企画調整課長） 今お2人のご意見を伺ったんですけれども、何かそこで皆様から関連するような発言等がありましたら、ぜひ、ご発言下さい。

F委員 私は、これからは行政に頼るべきではないという考え方なんです。行政に頼っていると、今の100歳のおじいちゃん、おばあちゃんがどうなっているのかわからない、これぐらいのレベルだと私は思っています。結局行政に頼るのは、例えばの話、数十年前に近鉄が出ていった。あれらは我々ではどうしてもできないから、これらを行政が幾らお金をかけても維持すべきだったと、私は思います。その辺が吉祥寺の、全国的にそうですけれども、今度の伊勢丹についても、あれも何としてもとめるべきだった、私はそう思います。吉祥寺というのは若い人たちの集まりだといっていますけれども、渋谷に勝てるはずがない。新宿に勝てるはずがない。今、立川を見るとほとんど中国あたりと同じ商圈だとしても100万人ぐらい日本に来ているそうなんです。将来は600万人とか1,000万人といっていますけれども、吉祥寺に呼べる何もないわけです。私が中国人だったら立川に行きます、高尾山があるし。そうすると、我々にできないことは行政にやってもらいたいですけれども、あとは基本的には。

昨日も武蔵野市報を見てびっくりしたんですけれども、意外に財政はいいんですね、初めてそういう意識を持って見ましたけれども。それで引かかるのは民生にすごくお金をかけている。私は常々思うんですけれども、産まれてきた時に目が見えないとか、失礼な言い方をすると心身障害者は一生絶対助けるべきだと思うんです。しかし、自分の努力なしでそういう人たちを助けるというのは、私は本当の民主主義ではないと思っています。私自身の考え方ですけれども。

だから、一つの案ですけれども、私は、この世の中で一番の罪悪は暇なことだと思うんです。私は定年退職して思ったんです。ぼやっとしているとテレビしか見ていないし、人の悪口ばかり目立つ。忙しいとそんなことを言っていられない。だから、私は仕事を始めたんですけれども、仕事を与えるべきだと思うんです。我々でつくるべきだと思うんです。だから、今のところ市が財政があれば市が株式会社をつくって、おじいちゃん、おばあちゃんたちを、今都心で一番悩みは、泥棒が入るとか、強盗が入るといって、そういう心配を持っているそうですので、防団グループをつくる。それを学生たちと一緒にドッキングしてつくる。そうすると、おじいちゃん、おばあちゃんたちは学生たちに躰とか何かを教えられるし、逆におじいちゃんたちは若者から若いエキスを得られる。防団、防災、それからごみ拾い、環境団というのをつくって、私の案ですよ、武蔵野市がそれをつくって、将来利益が上がれば、おじいちゃんたちのそこから代表、自由にやっていただいて、株式会社組織にして、利益集団してしまうというようなことをやれば、私はおじいちゃん、おばあちゃんたちはやると思うんです。例えば朝の6時から9時までに1時間働いたら2,000円ぐらいあげればという形で提案さえすれば、幾らでも集まってくると思うんです。

というような一例ですけれども、そういうことを武蔵野市に今のところの財力に余裕があるのであれば、ぜひ働ける場所をつくって、最終的には武蔵野市は自分で自立するんだという姿勢をつくっておいたほうが、私は将来のためになるというのが私の案です。

G委員 少子高齢化は武蔵野市にとって今のままでいけば避けて通れない将来の問題だと思うので、

財源を確保するというは大変大切なことだと思うんですが、今市の方がご用意していただいた額を見ると、幸いにも市民税によってかなり支えられているということ、私は、基本的にはちゃんと納税する、しっかりとした意識を持って、しっかりとした納税者が支えるということが、市として、市民としての義務であり、当然のことであると思うのです。もちろん大きな法人の方にきていただくのも大切なんです、それは種類によってもかなり難しい。工場がくるとなれば、またその周りの土地、固定資産税が下がる。例えばいい企業がくればそれでいいんですが、また働きにくる方たちがどのような方たちであるかというように、かなり環境の変化、緑が損なわれる、いろいろなことが起こってくるかもしれません。でも、私の理想として考えていることは、市民で支えていくということがとても大切なことで、そのことは、市民で支えるということは、高齢化していくこと、もちろん高齢者の方にも、お子様方にとってもそれぞれの立場にたって、自分たちのやらなければならない、しなければいけないことをやるという意識を持つことがすごく大切で、それが市を動かしていく力になっていくんだと思います。ですから、前回も言いましたように、とても抽象的なことなんです、高い意識を持って生活をするということが、まず市を動かすことであり、市民として生活していく義務だと思っています。

そのことなんですけれども、それでまず私たちここに来ている委員にもまず求められることだと思うんですが、もちろんいろいろな資料でこのように提案されて、本当にすばらしいことだと思うんですけれども、例えばここにあるように、PDCAサイクルを回すとか、いろいろ書いてございますけれども、例えばプランを立てて、する、チェックをしてアクションをする。でも、チェックをしてアクションを起こすということがほとんどの場合できていないわけで、プランを立てるということはとても簡単なことなんですけれども、実際することがちゃんとチェックをされているかどうかチェックしていないために、アクションを起こすことができない。四、五年前からこの言葉が盛んにはやりのように使われているんですけれども、実際それがなかなかうまくいっていないというのは、もちろん市で働いていらっしゃる方も市にかかわる方ですし、住んでいる私たち自身も市民ですので、その一つ一つの意識改革というのは本当に難しいことで、それも偉そうに言えないんですが、目に見えないもので、本当に難しいんですけれども、まずチェックをするということ。それはなかなか難しいことなんですけれども、でも一人一人が意識を持っていけば、小さなことなんですけれども、ちゃんとごみは決められたごみ袋に入れた、これでもひとつのサイクルとして回っていくんです。決められたこと、それでちゃんとしたものに入れて、アクションする。出す前にもう一度チェックをした、そういう小さな意識の積み重ねがそれぞれ相手を思いやる気持ちにもつながり、高齢者とかそういう人に優しいまちということにもすべてにつながってくると思うので、どうしたらそういうふうに意識が高められるか。私ならこういう指示された行いができます、私はこういうふうにできますというのが、一人ではわからなかったので、いろいろな年代の方の話が参考になればと思ってこの会に出席させていただいているんですけれども、話にまとまりがなくなってしまうんですけれども、そういうすべて小さな市民としての意識の高さがよりよいまちづくりにつながるということで、それは少子高齢化社会ということも支えていくのではないかなと考えています。

E委員 PDCAもまさに今おっしゃられたようにチェックをだれがするのかというのが非常に重要で、どうしても行政がチェックをしていくと、なかなか厳しい評価がしにくいところもある。行政、特に財政部門にかかわりますけれども、今の財政ですと、例えば民生費といってわかる方というのは行政関係の人だけで、一方で民間代表でやればそれをチェックできる人は武蔵野市にはごまんといえるだろう。いかに市民がチェックしやすい体制をつくっていくかというのはひとつ大事な点だとは思いますが。

それとも絡むところもあるんですが、今までの皆さんのお話を聞いていて私も思うのは、一つは先ほどF委員もおっしゃられた行政に頼らない覚悟を市民が持つということが、場合によっては第5期長期計画の一つの基調になるテーマなのかなという気はしております。武蔵野市に限らず、世の中全般、行政に対しておんぶに抱っこ、要求してということがどんどん続いていく中で、財政的にも、あるいは人と人のつながりも非常に希薄になっていって、社会の文化が崩壊していくということに対して、自分たちで何かやろうということで、財政的にも負担が軽くなるし、むしろ人と人との結びつき、あるいは老人の方の生きがい、そういったところに非常にいいほうに回転していくことがあるのかなというの、ひとつ行政に頼らない市民の覚悟というのは一つのテーマかなという気がしております。

もう一つ大きなテーマとして私思っていますのは、少子高齢化にしても、日本全体がそういう方向にいつている中で、それに対して武蔵野市あるいは市民、あるいは計画として、対症療法的に何か考えていくのか、それとも武蔵野市としてこういうふうにあるべきだという、あるべき論、理想論をまず掲げて、それに向かって何か努力していく、計画していく計画みたいなものを考えていくのかということというのは一つポイントになり得るのかなと思っています。特に少子高齢化などは、ある意味日本の最先端的に武蔵野市で始まっていって、一方で地方の限界集落とは違って、コンパクトシティに既になっている中で、しかも担税力というか、財政的にも余力がある中で、いい高齢化社会のモデルケースみたいなものをつくり得る、あるいは日本全体のことを考えるとつくる義務がある市なんじゃないかというぐらいに思うところで、そういったことも考えられると本当はいいのかなというふうには思っています。

B委員 行政に頼らない覚悟を市民が持つということは、言い方を変えれば、多分市民自治みたいなことの根本だと思うんです。ただそれは言うはやすい。このまちの場合は市民参加の長い歴史があるので、その歴史の継続として、それを今後継続していくやり方として、市民が自立してみずから考え、行動するようなことの中で、住民自治とか、市民自治とか今言われていることをどうするかといえば、市民が力をつけるしかないんです。と同時に、このことは市民と行政との協働につながってくるわけなんですけれども、事と場合によっては、行政と市民が対等で、なるべく対等でもいいですけれども、やることによって、よりいい方向にいく。より豊かな実りを得るということでいえば、はっきりいえば市の職員の方たちも、市民も、両方が、この前も言ったんですけれども、レベルアップする必要があると思うのです。

具体的なこととしては、例えば私がいつも行政とかかわって思っていることの一つには、今武蔵野市の市役所は総合職、ほとんどすべての職に職員が回っていく。2年、3年、5年で回っていくということをやっていますけれども、職種によっては、例えば図書館とか福祉、コミュニティもそういうところがあると思うんですけれども、ある程度、3年以上、あるいは5年、本人の希望によっては、時と場合によっては10年ぐらいというようなことで、専門職的な職員がいることで、確実にそこの部署はレベルアップするということもあると思うんです。そういうことが弾力的にできるような市政の運営になって欲しいと思います。市民がいかにレベルアップするかということは、これは非常に大きな問題なのでまた続けて後で話させていただきます。

事務局（企画調整課長） だんだん少子高齢から入って、市民と行政の関係、それとどうやって協力するかみたいな話になってきていると思うんですけれども、続けてお願いします。

C委員 Bさんから出された話、ご意見を中心に見ていたんですが、行政に頼らないという、市民と

行政の協働というところに関わってくるんだと思うんですが、私は、市役所の職員の人は結構専門家、担当の所管のところでは、結構専門家だと思っているんです。だから、市役所職員も、私たちの自治会に引っ張り出されて、こき使いましたけれども。そういうところで、今回8月1日の市報の一面の下水道の値上げのことで出前講座しますというのは、これは新しいことです。かつて余りないやり方だなんて思って、早速やりたいといったら、担当の部長が直接来るというのでやることになったんです。私たちもこういう情報をしっかり利用して、行政の人に、私は現場主義で、現場を踏んでほしいと思うのは、そのところです。それぞれの町、13町あるんですが、13町の町がそれぞれの成り立ちも違うし、住んでいる人も違いますから、考え方とか反応の仕方が多分違うんだろうなという気はします。緑町はどちらかというと結構厚かましい人ばかりいるものですから、使えるものは何でも使ってしまうというので、行政の職員の人にぜひこういう話をしてちょうだいとか、ああいう話をしてとか、例えば開発指導要綱の難しい話をしてというわがままを言ったりしたんですが、でも、それは私たち逆にそういう話を聞くことに鍛えられてきたなという気はするんです。市民の側も、今、Bさんがおっしゃっていたように、そういう力を持たないと先へ進めないです。だから、私たちは実践を、自治会という、私が所属している緑町のパークタウンの自治会なんですけど、50年近く歴史があるんですけども、そういう中で培ってきた力というのは大きいです。私たちは諸先輩の後を継いでいるんですけども、そういうのを武蔵野市民全体に行き渡るようにしていくと、市民もそういう意味では賢くなります。行政も市民に負けていけないので、かなり鍛えられると思いますし、たとえ二、三年の単位でこういうふうにごぐる回っていったとしても、この二、三年の間に専門性とか専門知識とか、それこそ法律的なことは市民にはなかなか難しいんですけども、武蔵野市が持っている条例とか、そういうものを市民に向けて発信をして、情報を共有していくことによって、武蔵野市民の意識がだんだん上がってくるのではなからうかなという気はするんです。だから、ぜひ、なかなかうるさい市民がいるところには出ていきたくないという行政の職員のあれもあるんでしょうけれども、でもそれは鍛えられるために出ていくという、出前講座がというような、そういう形でどんどん巷に出てきてほしい。そういう気持ちがあるんです。それがお互いに鍛え合う一つのきっかけなので、それも必要なのかなと、私は武蔵野市に住んでからの経験上から、そこが、今やっと始めたところだと思いますが、市民参加ということは行政参加、行政が参加することでもありと私自身は思います。

あとは、今たまたまクリーンセンターの建てかえのことでやっておりますので、国庫補助金をいかにしてたくさん取ってくるかという、財政だって武蔵野市は必ずしもずっと今の状態を保てるわけではないと思うんです。市民が努力もしなければいけないけれども、国が国庫補助金を2分の1出します、3分の1出しますというところはうまく利用しながら、武蔵野市の財政をうまく保っていくという、そういう知恵も必要だなというのは、私は今クリーンセンターの建てかえのことで、そのところではよく感じます。

事務局（企画調整課長） だんだん現在まで築かれてきたものという話で、市民と行政の関係、武蔵野市が築いてきた、皆さんと築いてきたという話になってきました。

A委員 今までDさんからC委員までの話を聞いてきて、行政と市民の関係がよく論じられて、いろいろ皆さんご意見を持っているなと思いました。例えばF委員のように、行政に頼らない覚悟とか、そういうことについて、特に私はまずは少子高齢化について話したいんですけども、後で都市基盤についても話したいんですけど、まずこの場では少子高齢化で、私が少子高齢化を今回の一つのテーマと

して考えるに当たって大事だなと思うことは、それは市民がまずそれぞれの世代もまず自分たちが責任を持つんだ。例えば少子高齢化の問題を、老人とか、あるいは高齢者の方とか、子供だけの問題ではなくて、中間層の団体、20代から60代の人たちもそういう人たちもまずそれぞれが責任を持つ。かつ、それぞれの特定の世代に負担を押しつけないことが大事だと考えております。そういう上で少子高齢化を考える上で持続可能な、それぞれの市民が快適に感じられる意味で持続可能な社会を目指すことが大事な視点だと、私は考えています。

その上で、私が行政と市民の関係について考え、どのように組み立てていくかと考えたときに、自助と共助と公助の関係だと思えます。それは第4期の調整計画では三角形のトライアングルで自助、共助、公助というのがとらえられておりました。そこではトライアングルの中でバランスよくそれをやっているという発想でした。でも、私は今の情勢を見るに当たって、行政に頼ってはいけぬ覚悟とおっしゃったように、私はまず自助が最初に土台にくるべきだと考えています。自助というのは、私は家庭レベルでできることと定義しております。その上で、共助、地域レベルでできること。そして、公助で行政サービスなどの気風が上げられると思えます。そのように、私は行政、自助、公助、共助のトライアングルの関係を、まず自助を土台にもってくる。それが大事な視点だと私は考えております。このように私は少子高齢化について考えていきたいと思えます。

I委員 私みたいなのが余りうろろう話すと会議が進まないの、私としては、いろいろな議題とか、いろいろな資料をいただいて勉強しながら、その後考えたことを、ここでうろろうお話ししても時間がかかりますから、とにかく一応今までの考えをまとめてお出ししました。これはこれから4回続く間にまたどんどん加えたり、修正したりして、でき上がったのはもっと整理して残していく、そういうつもりです。

私は、最初に申し上げたように、少子高齢化というのは、この国としてかなり重要な宿題だと思っております。ただし、少子化というのは改善する方法があると思うんです。高齢化というのは改善する方法はないんです。これはどちらかというと、若いほうに優先しなければいけない。これに対する対策、今度お出しした資料にも幾つか書いてございます。例えば、妙なアイデアですけども、空き地ができたならマンションをつくるよりも企業の社宅を誘致しなさい。社宅というのは年代はいつも現役世代がいますから、私が見ていても、例えばJRの社宅はいつも子供がいるんです、だからそういうアイデアですが。それから、産婦人科のネットワークを完全にしなさい。これが完全になったらお母さん方は好んでくるんじゃないですか。それから、保育園を、駅が3つもあるんですから、駅ビルとか、ああいうところに保育園をつくるというのは実行できないですか。そういうのがあると、働くお母さん方にとっては魅力ではないでしょうか。そんなような、個々のアイデアをずっと入れていきます。それから、教育を、青少年を育てている現役の世代は教育が一番の問題ですから、ここの青少年の雰囲気が良いか悪いかというのはまず大切です。それから、何と言っても今は学歴社会ですから、成績が良いか、悪いか、これは全国の試験を、この市は全学校で目指してください。今成績は良いでしょう。これは良いですと威張っていいと思えます。それがどれだけ維持できるか。それを親御さんたちは見えています、あの地域は学校が良いなど。先生方も良いんだろうと、こうなるわけです。今はこういうことを余りはっきり言っただけとはいけません、先生方が良いか悪いかというのは非常に大きいです。そういうのを見せるとか、そういうのを書いてあります。ほかの項目も書いてあります。それはこの場で議論をして、まな板に載せたらいいかどうかというのは事務局にお任せするつもりで書いています。

高齢化は、介護をどうやって軽減するか。これは年寄り在必死でやらなければいけません。僕は介

護の点を厳しくしろと言っています。それから、極端なことを加えたのは、尊厳死というものをこの市では普通にしなさいと。生命が大事とか何とか言いますけれども、最後の延命治療に入った人はむしろかわいそうです。パイプを突っ込まれて、意識はほとんどないんだけど、苦しいのは苦しいです。だから、意識なくてもこうやるんです。結局そのまま死にますから、最後に家族とお別れもできない。遺言も言えない。それはお医者さん方とよく相談をして、これは非常に極端な意見かもしれませんが。これは私の母が死ぬのを見て、延命治療というのは患者にとって良いのかというのを思いました。これは患者の立場から家族の立場からいろいろ考えなければ。そういうのを含めて、老人の扱いはそれなりに考えて、ともかく次の世代は介護というよりも、国際的にも相当ひどい相手を持っていますし、それから900兆円の借金というものをその少ない子供が背負うんです。これは今の現役世代はほぼ放り出しています。諦めているんです。皆さんそう思うでしょう。また40兆円か何か、それは諦めているんです。だから、インフレにしたいというのは、戦時国債みたいに帳消しにしたいんですね。そんなことをしたら大変ですよ。それを少ない子供にしわ寄せしていくんです。だから、これは僕にもどうにもできませんけれども、そんな意識を皆さん持たれて、子供さんをちやほやするよりも、たくましい子供さんに育てないと、この国も次の世代ももちません。教育に関しては、それは間違っていないかと。たくましい子供を育てなさい。頑張れる子供、努力する子供、我慢できる子、闘える子、これをつくらなかったら子供さんたちは不幸ですよ。そういう余計なことを書いて、私の一言一言皆さん方反発するでしょうけれども、でもこれは結構現実だと思うんです。

環境問題についても書きましたけれども、きょうはまだ環境問題の議論ではないですね。書いてあります。

「委員 最後なんですね、すごくプレッシャーがかかるんですけれども。正直いってこのフレームだと抽象的でぼやけるのがちょっと違和感があって、どう発言していいか、すごく悩ましいんですけれども。ハードからソフトというところでは、「ウワモノ」をつくらないという話もありましたけれども、「ウワモノ」は必要なものは必要だと思うんです。ただ要らない「ウワモノ」もあると思っています。露骨に言うと美術館とか演芸場は必要ですかというのもあるんです。吉祥寺の駅に2つぐらいある。美術館も何でつくったんですか、よくわからない。結構安いんですけれども、一回も行っていないです。絵を買うのも結構いい金額していると思うんです。この中にいる方であそこの美術館に行ったことありますか。

D委員 安くていいです。

「委員 でも、その3人ですね。だから、10人いて30%しか行っていないんです。10人中の3人ですね。ということは、そこまで利用率を考えたときに、全体を見たときにどうなのかというと、非常に。

事務局（企画調整室長） 30%の利用率というのはすごいですよ。美術館30%というのはあり得ない。

「委員 ここで30%は結構すごいんですけれども。全体でいったときの議論もあるのかということと、あの手のものは維持管理費が当然かかると思います。例えば文化会館は多分1日動かすだけで光熱費とか水道代を考えると結構いい金額がかかっていると思うんです。恐らく、1日電気つけていると100万円以上は使うと思うんです。ああいうものもそのうち老朽化して建てかえという話が出てくると、財政

上どこかでバランスを積まなければいけない、修繕費は必ず。都市計画にだんだん近づくんですけども、そういうものというのは整理したほうがいい。

行政に頼らないという点では、頼るべき点は逆にあると思っています。全部が全部要らないとか、頼らないというわけではなくて、少子高齢化の部分のところで少子の部分のところで皆様少子を全然見ていただけないので、次に子育て支援というのもあるんですけども、その部分で政策的なところで少子の部分のところは行政が先導してやってくれないと何ともならない。要は子育てしやすい環境ということに関しては、行政的な部分がやや必要なのか。皆さんもおっしゃるとおり、協働でとか、市民社会でといいます。現実論的にいうと正直いって無理です。地域で子供を育てようというのは恐ろしくてもはや無理です。公園に遊ばせにいくのにも子供だけでは行かせられません。僕は行っていましたが、今自分の息子と娘、勝手に行くとはいえませんが。正直いうと、もっと言ってしまうと、お年寄りも結構怖いです。お年寄りのほうが逆にいうと怖いです、まちを歩いていて、たまに。それでいいかということもあるんですけども、そう思うと、お年寄りにけんかを売るわけではないですよ、決して高齢者のことを目の敵にするわけではないんですよ、Fさん、決してけんかを売るわけではないですよ。そういう方もいらっしゃるということだけです。そういうのを考えていくと、地域でどうこうということ、少子の部分で行政に頼らないというのはない。やっぱり行政に頼らせていただきたいという部分があります。

経費の抑制というところという、これから都市計画の項で多分4回目ぐらいに出ると思うんですけども、いろいろな上物の整理をされたほうがいいのかと思っています。人口は徐々に減っているのは事実ですし、少子高齢化ということで、人が流入しているとはいえども全体的な人口としては日本全体で減っていますので、その部分で支えていくと考えたところで、徐々に減らしていったスリムな市にしたほうがいい。財政的な部分で負担がかからないようにする。仮に建てるとしても、「ウワモノ」は全部事務所ビルにしてしまおうとか、マンションで分譲するような、こういう建物のようなものをふやしていったほうがいいのかと。

事務局（企画調整課長） 一周しましたので、どうぞご自由にご発言をお願いします。途中で申しましたが、特に少子高齢社会がという中で、特に提示がありましたフレームとして、市が市民の皆さんと築いてきたもの、それをどうやって市民の皆さんも行政もレベルアップしていくかというようなことだと思うんです。頼るとか、頼らないとか、いろいろあったんだと思うんですが、今後どうやってレベルアップをしようかというようなところで、何かご意見をいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

C委員 その前に一つ、Iさんからの文書が出ていて、多分これは情報の共有化をしていないからこういうふうにおっしゃるのかなと思うのは、3ページのごみ処理について、ごみの分類、分別のことですけれども、アルミと鉄のことについて書いてあるんですが、武蔵野市は不燃の日に出していただければアルミと鉄は95%の精度でちゃんと分類されます。むしろ空き缶とか、そういうのでいくと、容器包装リサイクル法にのっとった資源化しかできませんので、アルミ箔とか鉄のものが入っていると戻ってきますから、ここをもう一度、多分ごみの便利帳には鉄とかアルミは、空き缶や何かは別ですけども、不燃の日に出してくださいというふうに書いてあるはずなんですが、まだそれが浸透していないということでしょうね。多分どういう機械が入っているか機械をご存じないから、だから市民の人はこういう心配をされるのかな。これは非常にいいご意見を、まだまだ努力が足りないとクリーンセンターにも言

おうかと思うんですけども、そういうことかなと思いました。情報の共有というのは、こういうことでもすごい大事な問題ですね。ちょっと一言、余分なことを言いました。

D委員 レベルアップということで、行政と市民の両方の間がということで、C委員もB委員もおっしゃったんですけども、行政の持つリソースと、市民の持っているリソースは違うと思うんです。それをお互いが協働することで、行政が私たちにいろいろ教えていただき、レベルアップしていただけることもあるだろし、また、行政の方が、おこがましいですけども、市民から学ばれることも多分あると思うんです。そういう形の協働の仕方というのをつくって欲しいなということと、あとは、少子高齢化で、少子の部分は行政が担う部分が大いのではないかとおっしゃったJ委員の、私ももっともだと思うんですけども、高齢化の部分で、単身世帯が増えたりしているんですけども、それも団地の中で自治会などでそういう方をサポートをしていく、そういうのをまた行政がうまくそういう流れができるようなサポートをしていただく、そういうふうな形がうまく回っていくと、お互いの持つ、市民の持つよいところ、行政が持つメリットをうまく生かして、両方がレベルアップして、少子高齢化社会にうまく対応していけるんじゃないか、ちょっと抽象的ですけども思ったんですけども。

C委員 団地の中ではそういう歴史がありまして、高齢者の方の団体、お互いに顔を見ながら、きょうも元気だねというのは、仕組みとして自治会の中にあります。子供、小さいお子さんを持っている方も、集会場をURが月に2回までは無料で貸してくれるんですけども、そこで子育てグループの人たちが自発的に何かおもしろいことをされているようです。時々のもじたりするんですけども、小さい赤ちゃんから、3歳ぐらいまでのお子さんだと思うんですけども、それは自主的にされているというところなので、本来だったら、そこへ子育てについて専門家といわれる人がお話しにきてくだされば、もっと子育て中の親の側は、迷っていたことを、そういうことだったねということもできるから、そういうサポートは行政側で必要なのかなというのは思います。

高齢者は定期的にそうやっていらっちゃって、行政からはだんだん体操、足腰を鍛えるためにだんだん体操を今月はやりましょうとか、それから振り込み詐欺に遭わないように防災安全課の担当の人が来てお話をされたりして、そこはうまくいろいろと交流されて、いいところはとっているみたいですが、そういうところは、だから、そういう仕組みがあちこちにあれば、安心して、お互い顔を知らないから、さっきJさんがおっしゃったように安心して遊ばせられないというのはあると思うんですが、その人がどういう人なのかというふうなことがわかればいいと思います。団地の真ん中にすごい草っぱらがあるんですけども、あそこで近所の子供たち、団地以外の近所の子供もお友達を連れてわっと遊びにきていて、あそこは非常に安全な場所。管理事務所に人もいますから、変なのが来たからそこから見ていますから、だから、そういう意味では安心していらっしゃる。だから、ああいう場所をあちこちにつくればいいわけですね。

F委員 市民のレベルアップというのは、私が思うのは、個人個人が豊かになることだと思うんです。つまり、自分でお金を稼ぐ。私ぐらいの年齢の方は、前にも言いましたけれども、お金儲けが罪悪みたいな感覚を持っているんです。そうではないんですよ。お金を儲けるということは、それを継続すると役に立っているわけですから、世の中にためになっているわけです。というお金の儲け方を市民全員がすべきだと思うんです。つまり、事業の創造だと思うんです。顧客の創造とドラッカーは言っていますけれども、多分今市の方もずっと何年給料は上がっていませんね。これからもう上がらないんです。新

しいエネルギーが開発されるまでは上がるはずがないんです。そしたら、それに適した生活をすべきだと思っんです。今のところ財政が良いかもしれませんが、結局は一人一人が利益を上げる。お金儲けは決して悪いことではないという、私はそれをまず意識を変えるべきだと思っんです。未だに言われますよ。Fさんはいい年になってよう儲けていると。何を言っているんですか、私は基本的に自分の一日の時間の暇つぶしのために時間をいかに有効に使うために、犬と歩けば散歩できますから歩いて運動になる。御飯もおいしい。それは結果論というところがある。お金がいたらそれが逆に税金が払える。お役に立っている。このことを、まち全体、市全体に啓蒙すべきだと思っんです。だから格好よく見えないところに価値を設ける資本主義だと今テレビでやっています。だけれども、最終的にはそんなことをいっても自分に利益がなければ幸せにはなれません。これは、不平不満というのは過去の幸せに対して比較して、ああ良くない、良くないと言っているだけであって、私は新しい需要を開発するには、先ほども言ったように、おじいさんでも健康な人がいますから、私は学生を使うべきだと思っ。柔道部、運動部、陸上部、体力があり余っている人がいっぱいいますから、この機会に自衛警察官にならないか。そしておじいちゃん、おばあちゃんとドッキングして、そしてそれをビジネス化すれば、自分で稼いだお金は今までゼロだったんですから、ゼロが1,000円になれば1,000円稼げるわけですから、市民のレベルアップに結びつくと思っます。私が個人的に考えるのは、やはりどんなことをいっても自分の利潤が、生活レベルが上がっていかないと不平不満になりますので、それをいかに市がバックアップするか。事業を開拓するグループを、学生、おじいちゃんたちもいますから、労働力が余っているわけですから、そういう集団をつくるということにすればいいと思っます。

この前たばこを一生懸命拾っているおじいちゃんとお姉さんがいたから、ただでやっているんですかと言ったら、ただでやっているという。こんな良いことをして何で堂々お金を取らないんですか。いやあ、そんなことでできませんと言っていましたけれども、そういう意識を市民全体が考えて、儲けることはお役に立っているんだという形で意識改革をし、頭を切りかえていくべきことが市民のレベルアップだと私は思っます。

E委員 市民のレベルアップ、いろいろなやり方があるかと思っんですけれども、一つの要素としては、いかに武蔵野市に愛着を持つか、定着するか、長く住むかというのが一つの要素かなという気はしております。先ほどのC委員のおっしゃった団地の話も、団地で長く住まれているからそういうコミュニティも出てくるだろう。もちろん閉鎖的な社会になってしまうというのは良くないと思っるので、ある程度の流入、流出というのがないとまたそれは活性化しないと思っんですけれども、武蔵野市自身がほかの近隣市に比べてそういう定着率、流動化率みたいなものがどの程度なのか、もしご存じでしたら教えていただきたいと思っんです。もしそれが低いようであればそれを高めるために何をすべきかというのは考えたほうがいいんじゃないか。もしそれが十分高いというのであれば別の視点で何か考える必要があるのかなと思っんですが。

事務局(企画調整室長) 武蔵野市は非常に流動性の高い市です。先ほどの人口構成で大木のようになっていましたね。学生さんと若いサラリーマン、それも単身世帯の、18歳から25歳の人が市外から流入してきます。そういうまちですので、年間1割の方が転出し、1割の方が入ってきて、13万人を維持しているという形で、定着なさっている方は定着なさっているんですけれども、全体的には非常に流動性の高いまちです。したがって、ごみの出し方のルールを守ってもらうのも大変なんです。ごみの出し方というのは、中間処理施設、清掃工場のあり方でだいぶ分け方が違ってきます。それは各自自治体

みんな違うものですから、ごみの出し方のルールを守られないのも流動性が高いとなかなか難しい。そういうまちです。

E委員 そうすると、いかに定着している人たちがそういう人たちを取り込んでいくのか。それから、新たに来る人に覚悟を持ってきてもらうとか。基本的にはいろいろ行政サービスが高ければ高いほうが住んでいる人にとってはハッピーだという意識はあるんですけども、その一方で、他市と比べて非常に高かった場合に、当然それ目当てに入ってくるフリーライダーの人もいっぱい来る。それをどうバランスよくやっていくのかというときに、先ほどから出ている市民も覚悟を持って市に、あるいはコミュニティに対して協力していくという意識を持って、そのかわり仲間になれば非常に良いサービスが得られますよという関係というのが一番理想ですけども、美しいのかなというふうには思うんです。出ていく人は魅力がなくて出ていってしまうのかということも考える必要があると思うんですけども。

C委員 魅力がなくて出ていくのではなくて、家賃が高いから出ていくんじゃないですか。実際にそう思っていますけれども。

事務局（企画調整室長） 武蔵野市の職員も25%しか住んでいないんですが、独身のときはアパートに住めるんですけども、結婚して世帯を持つと周辺に出ていくというパターンが非常に多いです。若年層の出ていくタイミングは、世帯を持つときというのが非常に多いみたいです。武蔵野市が、私が言うのも何ですけども、気に入らないからというのは、あるのかもしれませんが、余り聞いたことはないです。なにより家賃が高い。

E委員 子育てがしにくいからとか、緑地面積が狭い、少なくともっと自然のあるところで暮らしたいからというのではなくて。

事務局（企画調整室長） 家賃が高いイコール固定資産税が高いので税収が上がるという、そういうパターンの市なんです。非常に特徴的な市なんです。

C委員 私が住んでいるUR住宅は家賃が高いんですが、若い世帯の人が入ってきて頑張って何とか住むんですが、結局高くて外へ出ることにしましたと。自治会に退会届けが届くんんですが、理由を聞いてみると、この家賃ではとても共働きでも大変ですとおっしゃるぐらい家賃の高いマンションです。それぐらい、そのところを、武蔵野市は行政として何とかありませんかとしょっちゅう私は住宅対策課に言っているんですが、政策的に非常に難しいところですねとは言われますね。

事務局（企画調整課長） それこそずっと市民の皆さんと市で今の状況をつくってきて、それこそいろいろな調査で吉祥寺が住みたいまちナンバーワンというふうにいわれてきているのは、皆さんとつくってきた結果として今があると思うんですが、反面家賃が高いとか、住みたくても住めないとか、若い人は単身のときは住めるだけけれども、ファミリーになるとなかなか住めない。そのような問題が出てきたんですけども、それは市場の価値になっています。それを市場価値にあらがって下げるというのもなかなか難しい。ただ、そういうふうには評価されている市になっているんだなというふうには思っております。

C委員 だから、ある程度覚悟して武蔵野市には越してこないと大変なんです。

G委員 家賃が高い。もちろんそれはそれで私は良いことだと思うんです。ちょっと極端な例になってしまうんですが、私がニューヨークで住んでいたまちは、すごく小さなまちなんです。だれもがそこは住みたいまちだったんです。そこは小学校から高校まで公立の一貫制の教育を学校が行っているんですけれども、そこは全米でも有名で、公立にもかかわらず非常に高い進学率、IBリーグに結構行くというところで、だれもがそこに住みたい。教育も良い、市、まちの行政もすごく良い。そのかわり税金は高い、住む方も限られますということになってしまうんですが、でも、一生懸命頑張ればそこに住める。だから定着率は非常に高く、その家族が繰り返し、繰り返し住んでいくので、まちは衰えることなく、さらに発展して、自分たちのまちだという意識があるので、まちにごみは落ちていない。ごみが落ちていけば自発的に拾う。学校にいても自発的に、お掃除の方はもちろん入るんですが、お掃除をするような子たちではないんですけれども、落ちていけば当然目につけば拾うという、そういう教育が自然についているまちなんですけれども、このように、例えば家賃が高い。そこまでももちろん長い歴史の中で築かれたことなので、武蔵野市としてそういうふうにできるというなら、今ちらほらいろいろな市で中高一貫とか、小学校一貫というふうなことが出てきていますので、ぜひ、建物は建てかえるのが必要であれば建てかえるのはもちろん必要なことだと思います。安全の面から建てかえなければいけないんですけれども、例えばそういうときに中高一貫、小学校から一貫のものにできるものであればそのように一貫教育ということを考えながらやっていると、教育レベルが高い。それもなおかつ私立ではなく公立でやっていけるということになれば、高い家賃を払っても、実際教育にかけるお金がそこで減るとか、もちろん塾に行ってもかかるかもしれないんですが、その点でまた親の考えも変わったりと思うので、家賃が高いということでもプラスこういうメリットがこの市にはありますよということがアピールできれば、どんどんそういう意識の高い人たちが集まってくるまちになるということは、住みよいまちに、安全なまちになっていくのではないかなと思っています。

A委員 今まで皆さんから市民、あるいは行政をどうやってレベルアップするかという論点について、いろいろなアイデアで勉強させていただいたんですが、ほかに触れられていない点で私が思いついた2点述べさせていただきます。1つは教育で、もう一つがコーディネート力なんですけれども、この2つとも私が昨日、男女共同参画推進市民会議で勉強させていただいたことから学んだアイデアなんです。まず1点目教育です。一人一人市民が稼いだり、いろいろな市のために貢献するために、教育によって市民のエンパワーメントする力が大事だと思います。

例えば昨日の男女共同参画推進市民会議では、「まなこ」という雑誌があって、武蔵野市も関係されている。そこで例えばライター育成講座というものを利用しているが、だけれども、それにそういった講座と「まなこ」の編集あるいはレポーターとの連携がまだまだ不十分だというご意見とか実態がある。そうすると、そういった男女共同参画、それを担う市民がそういったことを育成する教育をもっとより良くすれば、もっと市民が力を得るんじゃないかというのがまず1点目です。

もう一つのコーディネート力です。昨日の会議では、まだまだ武蔵野市の中で市民参加をしたいと言う人がいるということ、例えば福祉協議会とか、そういう方々から実態の声として聞きました。そういった人たちが、少しでもあればできるけれども、だけれども、一度関わるともっと自分が望む以上に関わっていかないといけない。仕事との両立が大変だとか、そういった意見もあって、ではだれか、例えば

だれかそういった市民を、少ない仕事だけれども、そういった少ない仕事を多数の市民にやってもらえるように、だれか大学の教授とか、有識者とか、あるいはそういったまちづくりの専門家とか、そういったコーディネートする人をもってれば、そうすれば市民全体としての総体的な力が増すんじゃないか。そういったところはコーディネート力というの、市民や、あるいは行政をレベルアップする一つのアイデアだと思います。

事務局（企画調整課長） いろいろ出ておりますが、他にどうでしょうか。

B委員 コーディネート力ということかというと、市民がコーディネートしたり、ファシリテートしたりする力を持つ。協働サロンでもそういった講座はやっています。それは教育の中の一つだと思います。自分たちの中からそういう力を持つ市民が出てくることでさらにレベルアップする。一番初めにちょっと言ったまちづくり条例がまだできたばかりなんですけれども、これはソフトというより、ハードのまちづくりのために、これから市民が精いっぱい使えるツールだと思うんです。だから、まちづくり条例のことはどこかで、これがどのように役に立つのか、市民の武器というか、力になるのだというようなことをアピールするようところが欲しいなと思っています。まだ、余りそれほど知られていないし、実際にどう動かして、どういういいまちづくりにつながったというような実例がそれほどないので、これはぜひこれまでやってきたことの継承として力を入れてほしいと思っています。

I委員 私らの年代あるいは現役の方々もそうでしょうけれども、酒を飲むとか友達が集まったりすると、談論風発でいろいろな意見が飛び交うと思うんです。ところが、大体において、特に私など老人は、いわゆる竹林の七賢で、外に何も出ていかない。皆さんかなり良い考えをやりとりしても、竹やぶから外には何も出ない。これは日本の社会でかなりあるんじゃないかと思うんです。それを今言われたように、竹林に飛び交うものを拾って、よく選んで、それで担当部課にお届けできるシステムがあれば、これは、せっかくコミセンというものがこの武蔵野市ではよく発達していますね。コミセンが。「今日はこの議論をしたい人集まれと」と言うように、それを何かまとめる人がいて、くだらないものは切っ捨て、これは伝えたほうが良いと思うのは届けるとか、そういう流れをつくったらどうでしょうかというのが一つの私の感想です。

D委員 人と人をつなぐ場をつくるということが必要になってくると思うんですけれども、それは市民の力だけではなかなか難しい部分もあるので、行政がそこで力を発揮していただいて、いろいろサポートしていただいて、主役は市民なんですけれども、そういう形でやって、うまく循環ができると一番良いのではないかなと思います。先ほどのFさんの高齢者は働いたほうが良いということも、そういう情報がなかなか他の高齢者に伝わらないと思うんです。情報の共有も市がそういうことを、こういうのがあるんですよということを言って回るとか、それから、たまには資金の支援をすとか、経営ノウハウの提供とか共有、場所を提供したり、安い家賃で貸してあげるとか、そういうような、ちょっとしたサポートがあることで、小さな活動がちょっと大きくなったり、談論風発されているお年寄りがどこかで活躍する場ができたという、縁の下の力持ち的なそういうサポートを行政に期待したいなと思うんですけれども。

C委員 この間もたまたまクリーンセンターの周辺整備の話の中で出てきたんですが、ちょっとした

集会をするのに、あっちにも、こっちにも集会場はあるんですけども、有料、無料含めて。意外と、そこが空いているとか、満員だとか、1カ所で、そういう情報が全然わからない。ここ満員ですよといわれると、では近くのこの辺はどうなんですかと聞いても情報がよくわからない。そういうシステム、今は駐車場の問題で、吉祥寺はここが空いているとか、あそこが空いているというのがわかるようになってますね。そういう方法で、ちょっと集まって、サークル的なもので集まって会議とか話し合いみたいな、人が集まって何かしたいというときに、そういう情報があると、ではあそこに行こうとか、あそこへ行こうというようなことができるのに、あるいはたくさんの人数で集まりたいけれども、どこが空いているとか、そういう仕組みづくりみたいなのは、行政でやってもらわないと、市民はなかなかそういう仕組みをつくるというのは難しいと思ったんです。

E委員 市民との関係で2つ、今いろいろ話を伺っていて思ったのは、1つはグレーゾーンのところをぜひつくっていただきたいなと。つまり、いろいろな活動を地域でやっていらっしゃる方が非常に良いことをやっても、非常に入りにくい。閉鎖的に見えてしまう。あるいはいったん入ったら足抜けできないような恐れもあって、情報もないし、入りづらい。純喫茶みたいなイメージなんです。オープンカフェだと、ちょっとお茶飲んで、良ければもっと奥まで入っていくかみたいな気持ちもあるんですけども。オープンカフェになる場をうまくコーディネートしていただくとありがたい。青少協などもありますけれども、あれも良いことをやっているだけけれども、仕事もあるし、これ以上踏み込むと足抜けできなくなるのはまずいみたいな。また、そういうムードにいろいろなサークルがなりつつあるかなという感じもするので、グレーゾーンをうまくつくっていただくと、非常に良いかと思います。

それから、もう一つは、情報公開は重要だと思うんですけども、実際にはいろいろなホームページとか、いろいろなところでいろいろな情報が出ている。その気になって専門家の人が一生懸命、研究職の人には貴重な資料は全部出ているという世界なんですけれども、それを、今までそういうことに余り興味も関心もなかった市民が簡単にアクセスできるか。あるいはぱっと見てわかるかということ、とてもわからないものだらけだし、探すのも非常に困難だみたいなものが多い。そこをうまく情報公開プラスワン、プラスアルファみたいなところで、小学校、中学校で教えていくのか、わかりやすく漫画のようにして広くやっていくのか、あるいはその辺のコーディネートみたいなところを中間的な、市の方なのか、ボランティアがやっていくのか、何かその辺の仕掛けもあれば、より市民のレベルアップ、あるいは行政と市民のいい緊張関係も生まれるのかなという気がいたします。

D委員 男性の地域参加ということでは、これから団塊の世代がどんどん地域に戻ってくると思うんです。彼らが地域で何かしたいと思っても、今まで会社人間だったから、地域の情報を知らないと思うんです。どこへ行っていいかもわからないというようなこともきっとあると思うので、それをソフトランディングではないですけども、オープンカフェでお茶を飲んでみようかなみたいな形で、少し地域デビューしていただく、そういうふうな場づくりみたいなことがこれから、特に地域ではまた担い手が不足している部分もありますね。だから、そこで団塊の世代の男性にどっと入ってもらって、支えてもらうというのは、すごく良いんじゃないかと思うんですけども。

F委員 私4年ぐらい前に、お巡りさんがうちへ来られて、ワンワンパトロールをやってくれと言ってこられたんです。私、犬のお散歩をしていますから、ワンワンパトロールをやってくれというのは良いことですから、ということで、コミセンに行って人を集めてやったんですけども、そこに市の人

が入ったんです。名前は言えませんが、ぐちゃぐちゃ。だれだれを会長にするとか、今度どこに、そんなことばかり。要するに、暇な人は絶対に出てはいけないと思います。組織というのは忙しい人が、暇な人もいいんです、忙しい人が実務をやらないとぐちゃぐちゃになってしまう。私はあきらめて、それから4年たって今はやっているそうですけれども、一切私はノータッチ、失礼しましたということで筋を通して。議員さんですけれども、議員さんとお巡りさんと、要するに議員さんとかお巡りさんというのは結局行政の、私どもと違いますね、同じ人間ですけれども。どうしたらいいのか、どうしたらそれを票に結びつくとか、そんなことばかり言っていますから、こんなのでやっていたら、私と次元が違う。僕たちは飼い主さんの方がどこか旅行に行くときに困るから私どもが行ってというお仕事をしているわけですから、その人たちは私に賛同して会から全部抜けました。今、まだやっているそうですけれども。そういうことで、何かの組織をうまくずっとつなげるには、私は利潤だと思っています。永遠に、1年や2年では意味がないわけです。ずっと続けないと意味がないわけですから、だから、そこにぐちゃぐちゃ、今度の会合はどこに行ったらいいとか、会長さんをつくったら副会長をつくって、何々つくって、勝手にしろと。僕はみんなの前で、「こんなところにいる必要はない」と言って、僕は帰りました。だから、難しいです。

ワンワンパトロールと、もう一つ会をつくりました。しつけ委員会というのをつくりまして、それもコミセンに呼ばれて私行って、日本獣医大学にも行って、しつけの先生になってくれということでお話を承ったんですけれども、意見はいろいろ言っている。黙れと、そんなものは勝手に、だから意見を聞いていたら切りがないわけです。だけれども、私どものグループに入っている人たちは利潤がありますから、それについてきて、いまだに16年続いていますけれども、あくまでも利潤がすべてだとは思いませんけれども、ある程度組織を継続するには、何か流れる、私はまだわかりませんが、何かがあるんじゃないかなと思います。

B委員 第1回会議の時に、経常経費の抑制とか、市税、財政のバランスというようなことをおっしゃった方があったんですが、その辺を少し教えてほしかったんです。

E委員 まさに先ほどJ委員が言ったようなことに近いんですけれども、例えば美術館ですと3割の人が欲しいと。それについて、経常経費、運営経費、それからその後のリニューアルないしいろいろな費用がかかってきます。一方で、そうではなくてワンショットでお金を出して、それで効果を出すような施策もあって、特に箱物関係というのは経常経費が非常にかかってくる。あるいは人件費がかさむので非常に経常経費がかかってくる。その辺がどういう行政目的、効果を目指して幾ら使うのかというのを決めるときに、将来の経常経費まで含めてちゃんと考えて投資というのを決めていかないといけないですというのを、どういうふうに長期計画の中で、行財政計画ということだと思えますけれども、盛り込んでいくべきなのかというのがひとつ大事ではないかということをおっしゃったつもりなんです。

B委員 財政の問題というのは、後でも出てくると思うんですが、非常に大事な問題だと思うんです。それでいて私たち市民にはなかなかわかりにくいことなんですけれども、例えば私がよくこれはどう考えたらいいかと思うのは、職員の数は今正職員は1,000人を切っていますね。何年か計画で徐々に減らしていますね。一方でいえば、財政補助団体とか、第三セクターとか、市が直接やっていない団体の人、職員数はふえている。今武蔵野市は10年前に比べて全体としては事業とか規模は大きくなっているから、職員数が全体としてふえるのは当たり前だと思っているんですが、正職員を減

らして、そういったような庁内でも囑託、外でいえば第三セクターの職員が増えるというようなことで、全体として多分経費の節減にはなっていると思うんです。ただ、そのことだけに目をやると、肝心の市民が一番必要とするサービスがきちんと正職員の力で出てこないというか、その辺のマイナス面もあるんじゃないかと気がかりになるようなことがあって、その辺のことは今おっしゃっていた経常経費の抑制というか、それをきちんとあらかじめ考えていくということですね。同じように、どこかで市民の目に見えるような形でお示しただけでないものかなということは思っています。こちらが正確に把握していることではないんですけれども、その辺は危惧として感じるがあります。私たちが求めているのは、行政の、必要なときにきちんと必要なサービスがあるということも含めての期待なものですから。

E委員 私が申し上げたのは、特に人を減らすべきだとか、そういう観点ではなくて、単年度予算ですと、どうしても初年度に幾らかかるかということで事業計画の採否を決めがちになるので、それが民間ですと、アローワンのように、投資に対して幾らリターンがある、ここ10年なり20年なりの経営計画の中であるんだということで見えていくみたいな視点が市の中でも必要なんじゃないか。

B委員 ランニングコストみたいなものを。

E委員 もちろん、そのためには人件費がかかっても、経常経費がどんなに大きくてもやるべきことというのはやってもらうという意味では全く同じです。

B委員 その中で、人件費というのが非常に大きな部分を占めるので、そのことのためにサービスの点で問題が起きるようなことがないのだろうかという危惧です。

事務局（企画調整室長） 1点目のEさんのお話については、財務資料を全部つくってしまして、平成10年から、今の財政状況、外郭団体とか特別会計も全部連結したものがございまして、これも発表していますので、ぜひお時間があればご覧いただきたいと思います。ホームページに出ております。年次財務報告書というのが出ています。連結してありますので、先ほどおっしゃっていた外郭団体、それから特別会計も全部連結しておりますので、ごらんいただけたと思います。

それから、市の役割は何なのかという話だと思うんです。外郭団体に投げたから市の責任がなくなるとは考えてはいないんですけれども、財政的にできるだけ軽減していこうという方向はございます。したがって、もしそれでも、税収の話をするときは税率をそのまま全部推計していますけれども、実はサービスは厚くして、将来的に税を上げる。逆のパターンも当然、本来の自治の選択肢なわけです。そのあたりも大きな枠組みとしては、名古屋市などは議論したり、杉並区でも議論していますので、実は税率を動かす話とか、税制の話まで含めないと本当は自治という話にはならないんです。今は同じお財布の枠の中で何に使うか、どういうふうにするかという議論になるんです。もう一点は、Jさんがおっしゃったような、箱物に使う、文化行政に使うという形は行政がやるべきことなのかという議論が一方であるわけです。しかし、文化会館を民間で武蔵野市にできるかというとなかなか難しいので、多くの自治体は芸術文化に対してある程度の投資をするという選択を今までしてきたわけです。それも、ですから、将来どうしていくのかというのは大きな課題ですし、それから人件費の面でも、どこまで役所が手を出していくのか、民間ベースでやるのかという話も、役所の役割論なんです。

それから、Fさんがおっしゃったお金の話は、まさしく今大問題でして、有償ボランティアというの

は昔からあるんです。ボランティアというのは無償ばかりではなくて、有償、賃金をちゃんと払ってやっていただくというような話の整理も、実は市の中では非常に大きな問題になっていまして、ある部署ではアルバイト賃金で、アルバイトでやっていただく部署もあれば、本当のボランティアでやっていることもあるというようなこともある。それも、市民と役所がどのような関係を持つていくのかというので、今日出てきた話というのは、みんな役所をどういうふうにか考えるか。行政をどういうふうにか使うか、それは当然根底には費用は自分たちで負担するわけですから、そのあたりは、今日はいろいろ話を聞かせていただいて、そのとおりだなと思って聞いておりました。

C委員 私もたまたまクリーンセンターの建てかえの問題にかかわっていて、今PFIという方式が非常にいろいろ巷で言われているんですが、すべてに当てはまるかどうかということもちゃんと精査すべきです。PFIでやったとしても最終的には行政が責任を持つんですけども、その過程においてどうなのかという議論はこれからはちゃんとしないと、一気に今まで余り成功している例がなかったりするとだめだというふうな言い方は余りよくないと思います。長続きさせたいと思ったら、専門の業者に担うべきところは、担ってもらおうという方法も案外うまくいく場合もあるというのを、それをよくいろいろな点について、クリーンセンターでも研究中です。

事務局（企画調整室長） 補助金の話がございましたけれども、役人の本当の力量を発揮するところはいかに補助金を取ってくるかみたいなのところがありまして、補助金が一括交付金にするかという議論がありますけれども、市民のためにはいただけるものは絶対取ってくるというのが我々の使命だと思っています。ですから、先ほどの保育園の民営化についても、公共がやっているところない補助金が、民間がやると出る補助金というのが、福祉関係はたくさんあるんです。したがって、あえて民間の形をとるという手法もとったりするんです。そのあたりの知恵というのはぜひ聞いていただければ我々から提供する。それが行政側の、市の職員としての大きな責務としてあるだろうなというふうには思っています。

C委員 これからはそれをいかにして使えるかという、そのところでしょうね。

B委員 私はコミュニティ協議会にかかわっているので、コミセンが指定管理者制度になっていることは、ご存じの方も、ご存じでない方もいらっしゃると思うんですけども、武蔵野市の場合はすべての指定管理者が市に関係した団体ですね。これは特別な例だと思うんです。例えばコミセンが果たして指定管理者制度にする必要があったのか、なかったのか。することで何が違ったのか、何か変わらないのか、お互いに何のプラスがあるかというようなことは、どこでも検証されずにきています。これは恐らくコミセンに限らずに、ある時期直営でやるか指定管理者制度にするか、どちらかを選べといわれたときに、とととと指定管理者制度になってしまったというような流れがあると思うので、この辺も本当は一度きちんと見直ししてほしいと思っています。

事務局（企画調整課長） 今日はもうお約束の時間が近づいてまいりましたが、少子高齢化、いろいろな経営の問題、それから協働の話になってまいりました。今出たPFIとか、行政のあり方とか、指定管理者制度とか、私どもにぜひこういう情報をとということであれば出させていたいただきたいと思います。

今日の話の流れの中で、次回のフレームとしては、特に地域とかコミュニティの話になっております。特に武蔵野市は、皆さんもご存じのように町会がない自治体としてコミュニティ構想ということです。

とやってきたわけですが、ほかの自治体でほとんどない形を今まで市民の皆さんと行政がつくってきたということだと思っております。これから地域力とかコミュニティが一体どうなっていくのかというのは、本当に重い課題だと思います。今回は、ぜひそういう協働も含めて、地域がどうなっていくかということを中心にご議論いただければと。ただ、それだけではなくて、ここにもキーワードが上がっておりますので、それでも結構でございますが、そういう点についてぜひ議論を深めていきたいと思っております。きょうはお時間が迫ってまいりましたので、この辺にさせていただきたいと思っております。きょうはありがとうございました。

4. その他

(1) 議事録確認

事務局（企画調整課長） 最後に、次第に戻りまして、その他というところでご確認をさせていただきたいと思っておりますが、議事録の確認でございます。事前に皆様に見ていただきまして、きょうまでにご意見がということございましたので、きょういただきましたご意見で修正をさせていただきまして、第1回でお約束しましたように、個人名ではなくてA委員、B委員というような形で修正をして、早く皆様にごらんになっていただく。広く市民の皆様にごらんになっていただきたいと思っております。

(2) 次回日程確認

事務局（企画調整課長） それから、確認でございますが、次回でございますが、8月25日の7時からということでございますが、場所がここは違いまして、吉祥寺の武蔵野商工会館の4階でございます。旧伊勢丹の向かいの4階でございますので、お間違いなきよう、よろしく願いいたします。それでは、今日は本当にありがとうございました。今後もまだ続きますので、ぜひともよろしく願い申し上げます。

（了）